

齋藤軍治名誉教授は、有機導電体や有機超伝導体における長年のご研究と教育が高く評価され、平成 30 年 5 月 11 日に瑞宝中綬章を受章されました。

以下に略歴ならびに業績等を紹介します。

齋藤先生は、昭和 42 年に北海道大学理学部を卒業された後、同 47 年に同大学理学研究科博士課程を修了され、理学博士の学位を取得されました。米国やカナダの大学で博士研究員をされた後に帰国され、昭和 54 年分子科学研究所助手、同 59 年東京大学物性研究所助教授を経て、平成元年に本学理学部化学科教授に着任されました（同 7 年からは理学研究科化学専攻教授）。その間、平成 14 年から 19 年まで 21 世紀 COE 京都大学化学連携研究教育拠点の拠点リーダー、同 18 年から 20 年まで低温物質科学研究センターのセンター長として本学の発展にご尽力なさいました。平成 20 年に本学を定年退職された後は研究教育活動の拠点を名城大学に移され、同 29 年まで同大学総合研究所ならびに農学部教授を務められました。また、平成 27 年からの 3 年間は、豊田理化学研究所客員フェローとしても活躍されました。

学外での研究教育活動としては、仏レンヌ第 1 大学、名古屋大学、東北大学等で客員教授を務められました。また、日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員、科学技術振興機構調整費研究領域主管プログラムオフィサー、日本学術振興会産学協力研究委員会第 181 委員会委員長、科学技術振興機構テニユアトラック普及・定着事業委員会委員長などの要職を歴任され、我が国の学術研究の発展に大きく貢献されました。

齋藤先生は、長年にわたって化学と物理学の境界領域である物性科学の研究・教育に従事され、特に有機低分子を主体とした機能性有機物質の開発において数多くの先駆的な業績を挙げられました。例えば、通常は絶縁体である有機物に導電性を持たせるための明確な設計指針の提案、低温まで金属として振舞う有機物の開発、転移温度が 10 ケルビンを超える有機超伝導体の開発、極低温でも磁気秩序を示さない量子スピン液体の発見など、機能性有機物質における基礎科学の発展に多大な貢献を果たされました。独自の発想に基づく幅広い研究によって 800 報を超える原著論文や約 100 編の総説・著書を発表されるとともに、これらの研究業績によって、第 4 回井上学術賞、第 34 回仁科記念賞、日本表面科学会論文賞、第 56 回日本化学会賞、BCSJ 賞（計 3 度）を受賞されています。平成 21 年度春には、これらの功績が評価され紫綬褒章を受章されました。

今回の受章は、先生の卓越した研究業績によるものであることは言うに及ばず、先生が取り組んでこられた教育、学術、社会への広範な貢献が公に認められたものです（写真は、齋藤先生の奥様のご厚意によりご提供頂きました）。

